

授業概要

産業心理学とは、会社や組織の中での人々の意識、態度や行動などについて研究する学問領域である。人々が仕事に取り組む際に直面するさまざまな問題を心理学の立場から実証的に考えて、解決策を探る。たとえば、「どうしたら仕事へのモチベーションが高まるのか」、「良いリーダーとはどういう人なのか？」や「仕事のストレスにどう対処すればよいか」などの疑問を探求することで、働く人の心と身体の健康を守ることを目指す。

本講義を通じて、心理学が職場の人間関係や行動の理解にどのように活かされているかを学んで欲しい。授業は主に講義形式で行うが、映像視聴やワークも取り入れる。授業内容を興味深いものにするために各履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業計画

第 1 回	リーダーシップ
第 2 回	フォロワーシップ
第 3 回	ワークモチベーション：仕事への動機付け
第 4 回	組織コミットメント
第 5 回	対人関係のスキル
第 6 回	組織の意思決定
第 7 回	組織内の人間関係とコミュニケーション
第 8 回	中間まとめ
第 9 回	産業疲労：働く人の疲労、過労、眠気
第 10 回	職場環境：働く人を有害要因から守る
第 11 回	健康の心理：ストレスとメンタルヘルス
第 12 回	安全の心理：ヒューマンエラー
第 13 回	広告と色彩の心理学
第 14 回	ファッションの心理学：被服・化粧行動
第 15 回	各回の振り返りとまとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

- 産業場面や組織で働くことが持つ課題を理解し、自らのワークライフを考えること。
- 仕事のなかの問題解決に生かせるように、産業・組織心理学が培ってきた知見を学習すること。

履修上の注意

毎週の講義後にリアクションペーパーの提出を求める。講義に対する質問や意見等を積極的に書くようにして欲しい。また、授業と関係のない私語は厳禁である。私語を含め周囲に迷惑をかけるような行動がみられる場合には、退席を求めることがあることに注意すること。「組織心理学」と併せて履修することが望ましい。

予習・復習

- 予習は特に求めないが、配布資料を用いた復習は必ず行うこと。
- 講義で扱った内容と、自分の日々の生活上の出来事との関連を考えることも重要な学びになりうる。

評価方法

- 受講態度（リアクションペーパーを含む）：30%
 - 定期試験：70%
- 上記をもとに総合的に評価する。

テキスト

毎回、講義資料を授業テキストとして配布する。また、参考文献は適宜授業内で紹介する。